

どんびま

2008年6月3日発行
発行者 椛の湖農業小学校

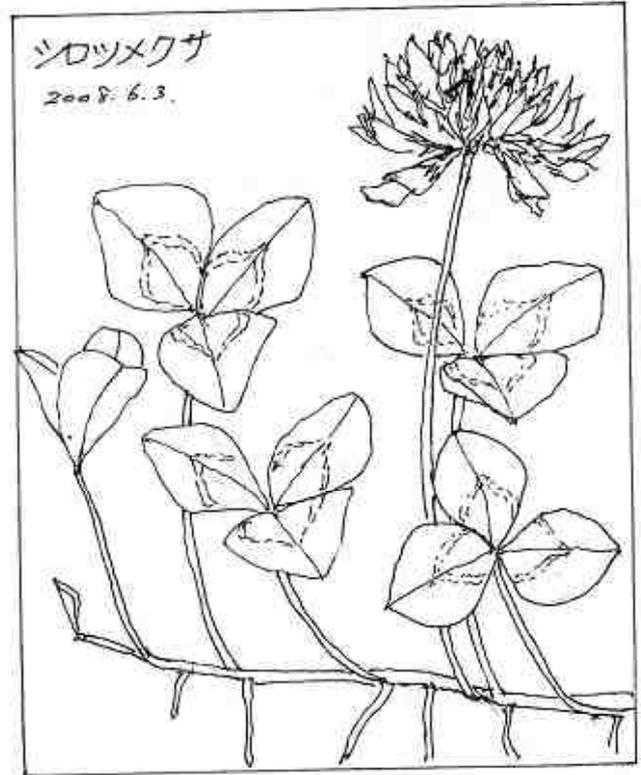
ケロちゃん安らかに

ケロちゃんの愛称で親しまれた加藤弘之くんが亡くなった。

6年間はお父さん半分、スタッフ半分で農小の運営を助けてもらった。大陸くんが中学生になって、今年から一家そろってスタッフの仲間入りをしてもらい、新しい風を期待していた矢先の事故だった。

3月号のあぼ兄の似顔絵も入学式の看板も彼の作だ。去年の文集に載せた「農小教訓イロハかるた」は彼の信条を彼ならではのユーモアで表現したもので、何度読んでも笑ってしまう。

なにより家族を愛した彼の最後の大事な仕事は同乗していた息子の命を守ることであった。私たちはいつまでも君を忘れない。(草)



シロツメクサ 一般にはクローバーで知られている。ヨーロッパ原産の帰化植物。牧草として栽培されていたものが野生化した。名の由来は、江戸期にオランダから輸入するガラス製品の詰物として利用されたことによる。

6月授業日のご案内

日程 6月15日(日)

受付 9:00~9:30

始めの会 9:30~9:40

授業 9:40~12:00

畑仕事・ほうば寿司・ほうば餅作り

昼食 12:00~13:00

授業 13:00~15:00

お茶摘み・お茶もみ・紙漉き

終わりの会 15:00~15:15

持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、箸、食器、野菜持ち帰り袋

<紙すき用>バット=2・タオル=2~3枚・さらし又は日本手ぬぐい=1枚・ボール・バケツ・新聞紙2日分・カップ(型に流すとき使用)・アイロン=グループで1~2台
牛乳パックは資料の の水を絞ったものを持参して下さい

問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)

TEL 0573-75-2109(椛の湖自然公園管理棟)当日のみ

～ 5月の農小レポート～

「どろんこになって上手に植えたよ」

周りの山々は緑をいっそう濃くし、ウツギ・ヤマボウシ・ニセアカシアそしてナンジャモンジャ（ヒトツバタゴ）など、白い花の咲く季節になった。

五月晴れの朝の空、元気な挨拶が飛び交い、笑顔が走り回った。

1 午前の授業（畑の作業）

草取り 去年の実が落ちていてソバがいっぱい生えた。他の雑草といっしょに取る。

ジャガイモの土寄せ 大きな芋をつけるための手入れ。鍬を使って株元に土を寄せる。

ハウレンソウ・サニーレタスの収穫 ハウレンソウは出来が斑だったので大きいものだけを取って、小さいものは来月食べられるかどうかは分からないが残してみた。

かぼちゃの植付け 各自がポットで育てて持参した苗に、名札を付けて植付けた。

キュウリ・ナス・トマトなどの植え付け 月一回の農小には毎日収穫するタイプの野菜はむかないが、花の咲き方、実の生り方の観察用。間が合えばもちろん収穫も。

2 昼食

草もち（あんこ、きなこ） ぼたもち（あんこ、きなこ） おにぎり（2種）

タケノコとワラビの味噌汁 コンテツのてんぷら すぐり菜のゴマ和え

レタスのサラダ 蒸したマネギ（おほか・マヨ）

* この地方では田植えが済むとぼたもち（牡丹餅 つまり牡丹の咲くころの餅）を作って振舞うのが昔からの慣わし。同じものを秋はおはぎ（萩の花の餅）と呼ぶ。日本人ってちょっといい。

3 午後の授業（田植え）

混み合い過ぎて十分体験ができなかった去年の反省をふまえて、今年はグループで分けて、両側から中に向かって植えていく方式にした。事前に稲の分株などの特性を説明したが、皆よく理解されて3本苗が守られ、上手な仕上がりになった。初めは泥に足をとられてフラフラ・ヨロヨロしていた子たちも終わるころには腰がきまって、なかなかのお百姓振りであった。今年は農小名物 あぼ兄の足洗いシャワーが再登場し威力を発揮した。

4 持ち帰り

* 畑で採れたハウレンソウとサニーレタス

* バケツ稲用の土と苗（コシヒカリ）

バケツの田んぼは上手く出来たでしょうか？ 苗は1株（3～5本）だけ植えましたか？ もし沢山植えてあったら今からでも1株だけ残して抜いてください。

9月にはバケツ稲コンクールをおこない、成績の良いものを表彰します。賞品もめますので、家族協力して頑張ってください。

* カブトムシの幼虫（2匹）

オス・メスは不明です。7月には成虫を持ち寄って「カブトムシ運動会あるいは相撲大会」を開催します。大事に育ててください。

* 希望者には自家菜園用のナス・ピーマンなどの苗もサービス（あぼ兄提供）

～ あぼ兄の百姓ばなし～

「楽しさにつながる道しるべ」

畑から農道に出る急な坂道を登りきると、そこに子どもが笑っているような顔の描いてある野石がある。

急な坂道は雨でぬかるんでいる時など軽トラの4WDをかけても登りきれないときがある。そんなときは運転の腕が悪いと笑っているように見える。そうかといって調子良く登りきった時は「よかったね」と言ってくれている顔になる。ただそれだけのことだが、その畑へ行くのが楽しみになった。

思ってみれば、よく似た姿（形）のものがあちこちにあった。

その一つが「田の神様」である。この神様は先月110号の「田植え」で書いた自然の恵みで育つ稲を見守ってもらう神様（つまり自然そのものが神様）である。その家の一番大きな田んぼの畦にススキを植え、小さな石を建てて祀る。旧の5月（6月）の節句にお参りをする。チマキ・朴葉モチとかフキ・エンドウなど旬のものをお供えして豊作を祈願する行事だ。子どもころはそのお供え物をご馳走であった。

道路の悪霊を祓い、行き交う旅人を守ってくれる「道祖神」もその一つだ。

あぼ兄の家のすぐ裏には古びた自然石に「飛騨街道」と彫った道標が残っている。その先が木曾街道（古道）との分岐点になっていたという。分岐点近くには小野小町の伝説のある泉「小町井戸」がある。15年ほど前、秋田県で開かれた「小野小町サミット」の資料にも「小町井戸」は全国にある小町が立ち寄ったといわれている場所の一つと明記されていた。あぼ兄の家の前の「庚申様」が日本三大庚申の一つになったのもこの街道の通っていたおかげかと思えば、横になっている道標の石をもっと大事にしなければならない。

石ではないが、農小では毎年ジャンボカボチャを作っている。大きなものでは64kgにもなった。愛知県のジャンボカボチャ大会に優勝したこともあった。これは食用にはならないので旧の農小では門柱の元に置いて看板代わりになっていたものだ。ジャンボカボチャを街角や道端に置いてみるのも面白いと思う。

国道19号から乙姫橋を渡る椈の湖への近道が全線開通する日が近いという。高台からは恵那山や坂下の町が見渡せるこの道に石や木などを使って楽しくなるような絵や道しるべをおいてみたらと提案したい。ただ、農小の案内にあぼ兄のつぶれた顔だけは描かないでほしい。

カーナビの時代に道標は不要かもしれないが、人の心を和ませてくれる道しるべはあっていい。むしろ現代人には地球を守る意味で 平和を守る意味で 自然を祀る神様や、人の生き方を教える道しるべが昔以上に必要なのではないだろうか。

急坂の野石に顔を描いた子は後で分かった。いつも出会っていた顔見知りで、丸顔で元気がよく挨拶をしてくれる、道ぐさ好きな子だった。

POST CARD

牛乳パックではがきを作ろう



爪を使ってポリエチレンをはがす



①パックを2昼夜
せっけんを溶い
たお湯に漬ける



忘れずに

枠を変えれば名刺
しおりもできます

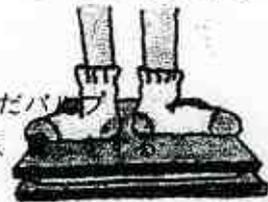
出来上がり



②バルブを水の中で
おろし金にかける

金網をはずし
さらしにはさんだバルブ
を重ね、一昼夜、

⑦さらしにはさんだまま
アイロンをかける



ザルにあけ、
固くしぼる。



⑥さらに金網の上から
タオルをかぶせ、水
抜きをする

1パック=50gのバルブ



+



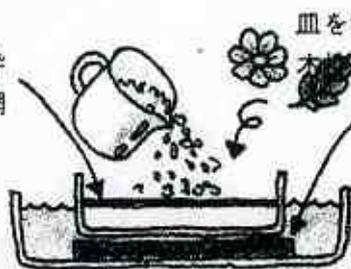
だんご状の
バルブ約10g + 水500cc 30秒~1分間

③はがき1枚分のバルブ溶液を作る

さらしの上のにのせる



木枠
金網



皿を置いた上に
木枠をセットする
押し葉・花は
ここで入れる

④空気が入らないよう
平らに流し込む



⑤金網ごと
はずす